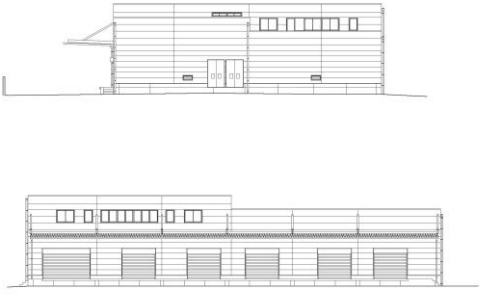
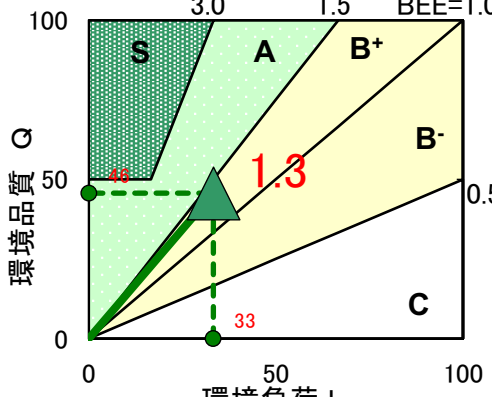
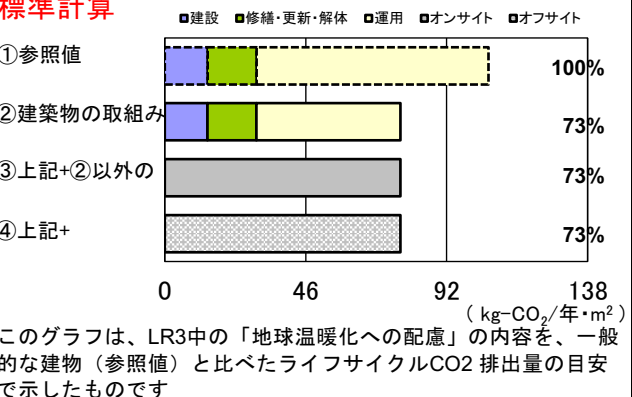
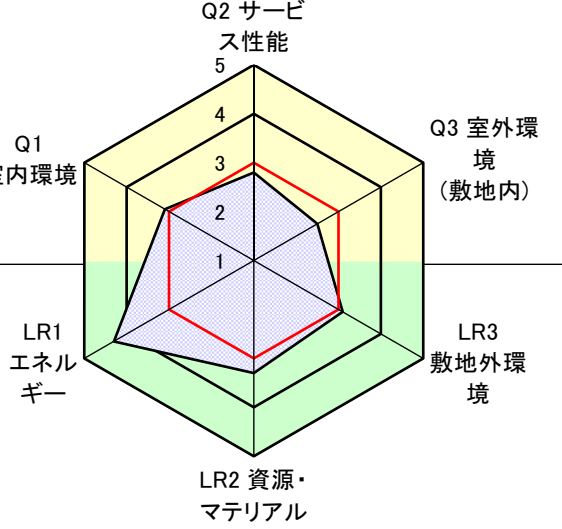
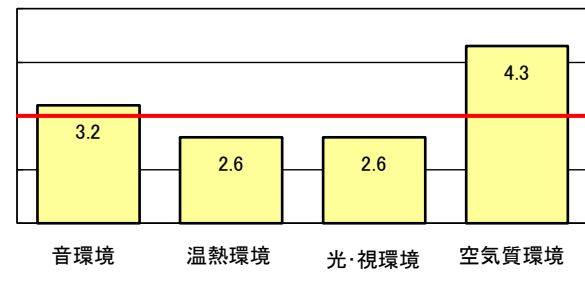
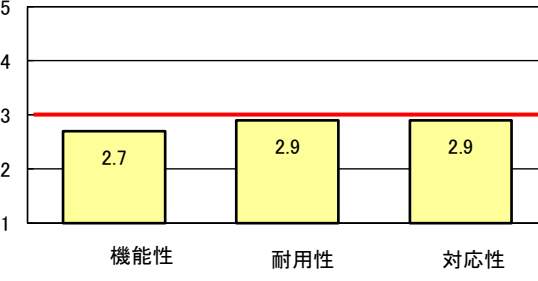
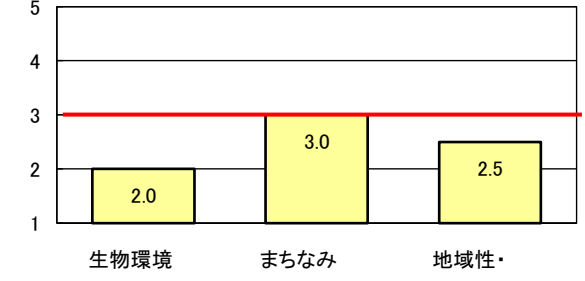
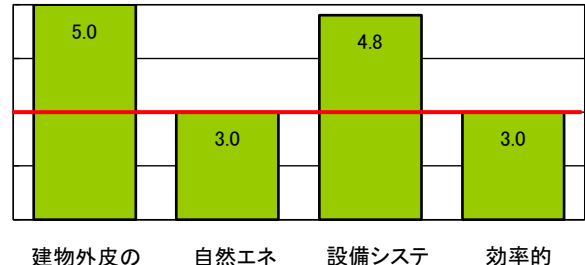
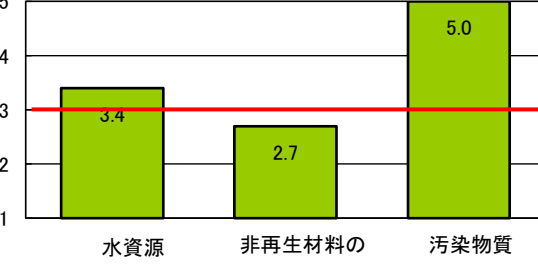
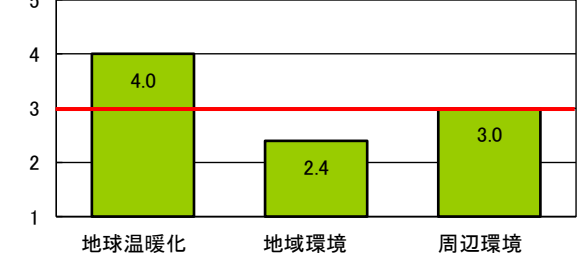


1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	池伝(株)名古屋支店新事務所	階数	地上2F	
建設地	愛知県名古屋市港区小割通3丁目22-1他6筆	構造	S造	
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	40 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所,工場,	評価の段階		
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年5月7日	
敷地面積	2,274 m ²	作成者		
建築面積	1,472 m ²	確認日	2020年5月7日	
延床面積	2,091 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.3 ★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★ B-:★★ C:★ 	☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆☆ 標準計算 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8 	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.5 
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.3 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.1 

3 設計上の配慮事項		
総合 本建物は自社倉庫として使用される建物となり、従業員が快適に執務が行えるよう、建物形状、使用建材、設備機器の選定を行った。 周辺環境への影響が少なくなるよう、建物高さ・建物位置・芝生を設置等を行った。		その他
Q1 室内環境 執務スペースは吸音効果の高い材料を採用し、又、自然換気用窓を設置し、快適な作業空間となるよう配慮した。 使用建材は全て規制対象外又はF☆☆☆☆を採用し、従業員への影響を最小にするようにした。	Q2 サービス性能 休憩室を広く設置し、従業員がリフレッシュしやすい空間とした。 設備の更新・改修がしやすいようOAフロアを設置した。	Q3 室外環境 (敷地内) 建物高さを10m以下とする事で近隣住民へ影響が少なくなるようにした。
LR1 エネルギー 外壁、屋根を高断熱性能品を採用し、設備機器も省エネルギー型とする事で地球環境への影響が少なくなるように配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器を採用する事で水資源の有効活用できるようにした。 又、将来のリノベーション等に対応しやすいよう、鉄骨造、LGS下地を採用した。	LR3 敷地外環境 CO2排出量が少なくなるよう、設備機器等の選定を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

池伝(株)名古屋支店新事務所

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.110769639	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.011076964	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.05538482	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。